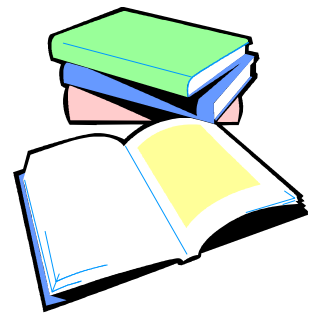


佐賀県教育センター

# 論文表記上の留意点 (語例集)



(H31. 4 改訂)

## 1 表記上の注意

### (1) 漢字, 仮名等の表記

漢字, 仮名等の表記は次による。

- ア 漢字 常用漢字表（平成22年内閣告示第2号）の本表及び付表
- イ 仮名遣い 現代仮名遣い（昭和61年内閣告示第1号）
- ウ 送り仮名 送り仮名の付け方（昭和48年内閣告示第2号, 昭和56年内閣告示第3号）
- エ ローマ字 ローマ字のつづり方（昭和29年内閣告示第1号）
- オ 外来語 外来語の表記（平成3年内閣告示第2号）

また、「学習指導要領」, 各教科・領域の「学習指導要領解説」の記述に準ずる。

※ 留意する表記や用語（小・中・高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説』等から）

児童のよい点	互いのよさ	児童生徒	よりよく	デジタル化	道徳科	コンピュータ
アイデア（小：図画工作, 中：美術, 高：芸術, 情報など）				アイディア（中：英語, 高：英語など）		
コミュニケーション	ハードウェア		レクリエーション		ボランティア	

### (2) 「・」とする表記

小・中・高等学校の『学習指導要領解説総則編』に見られる表記を参考にする。

主体的・対話的	見方・考え方	資質・能力	体育・健康	体系的・継続的
興味・関心	横断的・総合的	合科的・関連的	基礎(的)・基本(的)	健康・安全
改善・克服	家族・家庭	基礎的・基本的	国家・社会	編成・実施
評価・改善	産業・経済	能力・適性	役割・立場	教材・教具
問題発見・解決	把握・分析	知・徳・体	アクティブ・ラーニング	
教育内容・方法	連携・協働	実践的・体験的	※観察・実験（観察, 実験）	
技術・技能	改善・充実	組織的・計画的	※知識・技能（知識及び技能）	

\* 上記の表現については、原則である。したがって、前後の文章によって判断する。

### (3) 句読点の使用

- ・ 読点は「,」または「、」を使用し、一つの論文中で統一する。（引用文内の読点もどちらかに統一する。）
- ・ 特に、接続詞の後には、読点を打つ。【例】「また～」→「また, ～」「そして～」→「そして, ～」
- ・ 長い文については、句点を打ち、幾つかの文に分ける。

### (4) 数詞の扱い

- ・ 基本的に、序数として使う場合は算用数字とし、慣用的な語は漢数字とするが、同一論文中で表記が統一されていればよい。（以下は、学習指導要領内で使用されている表記例）

1 学年	1 単位時間	1 年間	一人一人	役割の一つ	一つ一つの動き	二つ目は
3 点目	次の 2 点に	2 語	第三に	二つの課題	二点説明する	一斉に
2 学年間	2 文	第 2 表	二種類	三つの柱	二人三脚	三者が

- ・ 1 桁の数字は全角, 2 桁以上の数字は半角で表記する。（3 人, 25 分, 100 メートル）

### (5) その他

「話し言葉」調の記述ではなく、「書き言葉」として記述する。（ただし、児童生徒の発言やワークシートの記述などはこの限りでない）

## 2 研究紀要のまとめ方と記入例

### (1) 項目、タイトル、書き出しなど

項目の記号は、必要に応じて下記の使用順序で用いる。

大項目	→	次項目	→	(順次下位項目が必要な場合→)	
1 (全角)		(1) (半角)		ア (全角)	(ア) (半角)
2		(2)		イ	(イ)
3		(3)		ウ	(ウ)
				a (全角)	(a) (半角)
				b	(b)
				c	(c)

[文章の中で項目分けが必要な場合は、 ①, ②, ③, または i, ii, iii等を使用する。]

← 項目1まではゴシック体で記入 (原則)

1	研	究	の	～							* 番号等の付け方は、左の例に準ずる。
(1)	研	究	の	～							
	ア	研	究	の	～						
	(ア)	研	究	の	～						
		a	研	究	の	～					* そのページの項目が (a) などの下位項目し かないときは、左詰にする場合もある。
		(a)	研	究	の	～					
(a)	←										

### (2) ワードソフトの設定

ア 研究計画書、研究紀要などの文書は、特に指定がない限り、次のように様式設定をする。

用紙サイズ	: A4判, 縦用紙, 横書き
1 ページ字数	: 46字×42行, 明朝体10.5ポイント
余白	: 上余白20mm, 下余白25mm, 左右余白18mm
表記	: この「佐賀県教育センター論文表記上の留意点 (語例集)」に準ずる
	※ 表内の行数や行間は、特に指定はない。
	※ 図や表の中の文字, 図表のタイトルの文字については、8ポイント以上とする。

#### イ 文字詰め初期設定

##### ・ 一太郎の場合

ファイル→文書スタイル→スタイル→体裁タグより、「和文体裁」の中の「禁則処理」, 「追い込み」, 「括弧類の重なり処理」にチェックを入れる。

##### ・ ワードの場合

ファイル→オプション→文字体裁を開き、「カーニング」の「半角英字と区切り文字」及び「文字間隔の調整」の「句読点のみを詰める」にチェックを入れる。

(3) 図や表の挿入

図や表などの掲載については、下記のとおりとする。また、タイトル名はゴシック体とする。

図・表などが一つしかない場合も、**図 1**、**表 1** などとする。

図・資料の場合……図・資料の下に(センタリング)      表の場合……表の上に(センタリング)

(図) 絵、地図、グラフ 構造図など <b>図 1 ■ タイトル</b>	(資料) 写真、児童の感想など <b>資料 1 ■ ○○○○○○ ○○○○○○○</b> ※タイトルが長い場合	<b>表 1 ■ タイトル</b> (表) 記録や調査結果を示す 表など
---	--	---

※ センタリングし、全角1文字分空ける。(■は全角スペースを表す)

本文中で図・表などについて言及するときの表記

- ◇ 本文中では、ゴシック表記。  
＜例＞ 実験の様子を**表 5**に示した。  
・・・を作成し(**資料 4**)、使用した。  
「・・・」(**図 3**)という質問について、
- ◇ 文末に示す場合。  
＜例＞ 「・・・」と記述している(**資料 6**)。
- ◇ 図・表などが別のページにある場合。  
＜例＞ **前頁資料 4**を基に、・・・  
学習過程を**次ページ表 1**に示す。  
カード(p.17**資料 8**)を活用し、
- ◇ 図・表などの一部分を示したい場合。  
＜例＞ **資料 5**の**枠囲み部**のように  
**表 1**の**下線部**から、・・・  
**前ページ表 1**の**1, 2**のように

(4) 引用の仕方

ア 引用の示し方

文章中の該当箇所の右肩に<sup>①</sup>、<sup>②</sup>(上付1/4倍)の通し番号で示す。※<sup>①</sup>括弧、数字すべて半角

＜例＞ ……であるが、梶田勲一は、「○○○……」<sup>①</sup>と述べている。

巻末の引用文献欄には、右肩に示した番号を最初に示すことで、引用した書籍や紀要と対応させる。

イ 引用者名の表記

論文中で他の論者の文を引用する場合、初出時にはフルネームで記載。二度目からは姓だけでよい。ただし、同姓の者が複数いる場合は二度目以降もフルネームで記載する。

ウ 引用文には、「」の引用記号を用いる。

前後の文を省略する場合は、「…」(3点リーダー)を2文字分入れる。→「……」

＜例＞ 「○○○……」(後略の場合)「……○○○」(前略の場合)

引用文中に「 」の記述がある場合は、『 』に置き換える。(「○○『○○』○○」)

引用は原文と一字一句違わないようにする。原文の誤植も「ママ」と示し、そのまま記入する。

<例>「……<sup>ママ</sup>○○……」(○○は誤植の部分を表す)

エ 長い引用の場合は別の段落にし、左右を1文字分空けておく。

オ 間接引用はなるべく行わないようにする。原文がいろいろと解釈される場合もあるので、直接引用の方がよい。

#### (5) 引用及び参考文献の書き表し方

ア 著者名、書籍名、発行年、出版社名(引用の場合はページ数も)の順で書く。

イ 引用のページは、そのページのみ場合はp. 7、複数ページの場合はpp. 14-17のように書く。pと- (ハイフン)、. (ピリオド)は半角とする。記述例(1)参照。

ウ 編集した人、著作し編集した人についても、「○○編」「○○編著」と正確に示す。

エ 書籍名には『 』を付ける。

論文の場合は「 」, その論文集(雑誌名)は『 』と併記する。記述例(2)参照。

なお、答申は、『 』, 教育センターのコンテンツも『 』を使用する。

オ 発行年は著作物に書かれている表記を用いる。(西暦なら西暦, 元号なら元号)

西暦の場合は, 半角数字とする。

元号の場合は, 平成9年までは全角数字, 10年以降は半角数字とする。

#### カ 引用文献の記述例

《引用文献》

- (1) ■■ 山田■一郎編著 『総合学習のあり方』■1997年■教育書店■pp. 142-144 (または, p. 142)
- (2) ■■ 佐賀■太郎 「総合的な学習の時間における協働学習の取り入れ方に関する研究」『川上  
大学大学院教育実践論文集』■2017年10月号
- (3) ■■ 佐賀県教育センター■ 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』■平成26年3月  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h26/01\\_syakai/toppage.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm)
- (4)(5) ■大和■春子 『どうつくる、探究活動』■2019年■佐賀書店■p. 8, p. 25

《参考文献》

- ・鈴木■健一編著 『総合学習の理論』■2011年■大和書房
- ・浦川■仁一郎・森山■義太郎 『国語科の授業づくりを探る』2013年 北館出版社
- ・松尾■信 『問題解決の過程において数学的な思考力を育む指導方法を探る』■2017年■  
教育図書社
- ・佐賀県教育センター 『理科力向上サポート事業』  
<http://www.saga-ed.jp/chouken/rikasaport/risapotop.html>

Callout boxes:

- 1行で書けない場合は、2行にまたがってよい。
- 引用、参考それぞれの頭をそろえる。
- 書名の開始位置をそろえる。書名でなければ2行目は、『の真下から開始する。
- 参考にしたWeb資料も、参考文献として記す。URLは、頭をそろえる。

### 3 その他、表記上の注意

- ・項目を表す番号，アルファベットの後は**1マス空ける**。
- ・記号(○、・など)の後は**スペースを空けず**，2行目以降の文頭は1行目の文頭にそろえる。
- ・文中の2桁以上の半角数字や半角英数文字は，centuryやTimes New Romanに自動変換する場合があるのでMS明朝体になっているか確認する。

悪い例… PISA 学力調査，2017年，ALT，45分授業など

- ・英文字を使用する場合は，次のような表記にする。(原則)  
英文や単語を書く場合は，語頭・文頭だけ大文字を使った**半角明朝体**…Web，“What's this?”など  
単語の頭文字を組み合わせて意味を成すものは，**全て大文字の全角明朝体**…ALT，TT，ICTなど
- ・英文を入れる場合は，カギ括弧(「○○」)ではなく，quotation mark (“○○”) でくる。
- ・動詞として漢字表記をするものも，補助用言として使う場合は仮名表記とする。  
＜例＞ [お菓子を頂く・発表していただく] [資料を下さい・お座りください] [資料が欲しい・発表してほしい]
- ・網掛けは，濃淡に注意する。
- ・「」に文章が続く場合は，句点(。)を付けない。ただし，「」内に複数の文章がある場合は，最後の文より前の文には句点を付ける。

＜例＞

……本時の課題を次のように設定した。「じしゃくにつくものつかないものを調べよう。」

(「」の後ろに文章が続かないので，句点を付ける。)

……事前のアンケートの中でA児は，「どう接していいか分からない」と答えていた。

(「」の後ろに文章が続くので，句点を付けない。)

……B児は，「ピーカーの下の方は冷たいよ。水は上の方から温まってくれたい」とつぶやいていた。

(「」に複数の文章があるときは，最後の文だけ句点を付けない。)

- ・文中(箇条書きを含む)の( )，「」は**全角**とする。  
ただし，項目を表す場合や引用の場合は半角である。例：(1)

4 研究紀要等の表記について（語例集）

表中の、△は表外漢字・常用漢字外。〔 〕は望ましい語句、\*は許容を示しています。

見出し	表記	備考	あと	跡	苦心の跡, 跡目
			あと	痕	傷痕
			あまり	余り	余りが出る ～した余り 余りにも
【あ】					
あいさつ	挨拶				
あいだ	間柄		あやしい	あやしい	怪しい人影
あいにく	あいにく	△生憎	あやしい	妖しい	
あいまい	曖昧		あらかじめ	あらかじめ	△予め
あいまって	あいまって	△相俟って	あらためて	改めて	改めて～する
あえて	あえて	あえて～する	あらゆる	あらゆる	△所有
あきらめる	諦める		あらわす	表す	言葉に表す
あくる	明くる	明くる日		現す	姿を現す
あげく	挙げ句	～した挙げ句		著す	書物を著す
あける	明ける	夜が明ける	あらわれる	表れる	喜びの表れ
	空ける	時間を空ける		現れる	太陽が現れる
	開ける	窓を開ける	ありか	在りか	△在り処, 在処
あげる	上げる	品物を上げる	ありかた	在り方	
		物価が上がる	ありがたい	有り難い	有り難み
	揚げる	船荷を揚げる	ありがとう	ありがとう	
		歓声が揚がる	ある(連体詞)	ある	ある日
	挙げる	一例を挙げると	ある(動詞)	ある	そこに問題がある
		国を挙げて		有る	財源が有る
	～(て)あげる	図書を貸してあげる			有り・無し
あこがれる	憧れる			在る	日本はアジアの東 に在る
あざける	嘲る				書いてある
あたかも	あたかも	△恰も		～(て)ある	
あたり	辺り	辺り一面	あるいは	あるいは	△或いは
あたりまえ	当たり前		あわせて(副詞)	併せて	併せてお願いする
あたる	当たる	予報が当たる	あわせて(接続詞)	あわせて	あわせて, ～
		～に当たり,	【い】		
		～に当たって,	いう	言う	彼の言うこと
あっせん	あっせん	△斡旋 〔周旋, 世話〕		～いう	～という場合
あつらえる	あつらえる	△誂える		いう	こういうこと
あて	宛	宛名, 宛先 各学校宛て	いえども	いえども	〔～でも, ～であ っても〕
あてる	当てる	日光に当てる	いかす	生かす	△活かす〔活用する〕
		当て外れ	いきおい	勢い	勢いが悪い
	充てる	保安要員に充てる	いけい	畏敬	
あと	後	後で～する	いく	行く	学校へ行く
				…(て)いく	実施していく

見出し	表記	備考			
			いろいろ	いろいろ	煎茶
			いわば	言わば	△色々
			いわゆる	いわゆる	△所謂
			いわんや	いわんや	△況や
					[言うまでもなく]
			【う】		
いくつ	幾つ		うえ	上	作成する上で
いくら	幾ら	幾ら考えても 全部で幾らか	うかがう	うかがう	△窺う
いしゆく	萎縮				成長がうかがえる
いす	椅子		うかがう(聞く, 尋ねる, 訪問するの謙語)	伺う	10時に伺います
いずれ	いずれ	△何れ	うた	唄	長唄, 小唄
いだく	抱く	△懐く	うたう	うたう	条文にうたってある
いたす	致す	致し方ない 繁栄を致した原因	うち	内	部屋の内
	～いたす	御案内いたします		うち	そのうち
いたずら	いたずら	いたずらに時間を 費やす	うちわけ	内訳	～のうち
			うつ	打つ	知らないうちに
いただく	頂く	御返事を頂きたい	うながす	促す	
	～(て)いただく	報告していただく	うやうやしい	恭しい	
いたって	至って	至って～である	うる	得る	得るところ
いたる	至る	東京に至る 至る所に	うらやましい	羨ましい	羨望
いちじ	一時	一時の出来心	うらやむ	羨む	
いちず	いちず	いちずに思う △一途	うんぬん	うんぬん	△云々
			【え】		
いちづける	位置付ける	△位置づける	えさ	餌	
いっこう	一向	一向に差し支えない	える	得る	許可を得る やむを得ない
いっさい	一切	一切関知しない			
いっしゅう	一蹴		【お】		
いっしょ	一緒	一緒に行く	お(接頭語)	お	お礼
いっせい	一斉	一斉検査			お願いします
いっそう	一層	一層の努力	おいて	おいて	△於いて
いったん	一旦	一旦休憩する			～において
いっぺんに	一遍に	一遍に～する	おうせい	旺盛	旺盛
いまさら	今更		おおいに	大いに	大いに利用する
いまだ	いまだ	△未だ	おおかた	大方	大方の意見
いやしくも	いやしくも	△苟も			大方まとまる
いる	入る	気に入る 手に入れる	おおぜい	大勢	
	要る	保証人が要る	おおむね	おおむね	△概ね
	居る	居場所, 居所	おおよそ	おおよそ	△大凡
	いる	関係者がいる			
	煎る	～している			



見出し	表記	備考	【か】		
			か	か	3 か月 (1, 2 か月)
				箇	二, 三箇所
		おおよそ 2 か月く	かじょうがき	箇条書	
		らい	かい	かい	△甲斐
おかげ	おかげ	△お蔭			～したかいがあつて
		おかげで～	がいして	概して	概して良好である
おこない	行い	△行ない	かいしよ	楷書	
おこなう	行う	△行なう	かしよう	潰瘍	潰す
		調査を行った	かえつて	かえつて	△却つて
おくびょう	臆病	臆する			かえつて不便になる
おさめる	収める	目録に収める	かえりみる	顧みる	過去を顧みる
	納める	注文の品を納める		省みる	自らを省みる
	治める	領地を治める	かえる	変える	観点を変える
	修める	学を修める		換える	名義を書き換える
おそらく	恐らく			替える	振り替える
おそれ	おそれ	～のおそれがある		代える	書面をもって挨拶
おそれ	畏れ	畏れ多い言葉			に代える
おつて (副詞)	追つて		かかる	かかる	△斯る
おとさた	音沙汰	[便り, 音信]			[このような]
おとな	大人			かかる	△罹る
おのおの	各, 各々				病気にかかる
おのずから	おのずから	△自ら		係る	～に係ること
		おのずから理解で			△関る
		きる	かかわり	関わり	△～にも関わらず
おびただしい	おびただしい	△夥しい	かかわる	関わる	
おぼしめし	おぼしめし	△思召し	かく	描く	図形を描く
おぼつかない	おぼつかない	△覚束ない	かぐ	嗅ぐ	嗅覚
おもしろい	面白い		がけ	崖	断崖, 崖下
おもに	主に		かける	掛ける	迷惑を掛ける
おもむき	趣				時間を掛ける
おもむく	赴く	任地に赴く			費用を掛ける
おもわく	思わく	△思惑		懸ける	優勝を懸ける
およそ	およそ	△凡そ			賞金を懸ける
および (接続詞)	及び	A 及び B		架ける	橋を架ける
およぼす	及ぼす				電線を架ける
おり	折	その折	かこく	苛酷	* 過酷
おりから	折から	△折柄	かする	課する	税を課する
おる	おる	△居る		科する	刑を科する
		～しております	かたがた	かたがた	お礼かたがた
おわり	終わり	△了	かたづけ	片付け	
			かたづける	片付ける	

見出し	表記	備考			
			きたる	来る	来る○月○日
			きづき(きづく)	気付き(気付く)	△気づき(気づく)
			きはく	希薄	△稀薄
かたわら	傍ら	歩道の傍ら	きふ	寄附	
がち(接尾語)	～がち	～しがち ～ありがち	きまり	きまり 決まり	きまりに関する 決まり方
かつ	かつ	△且つ	きゅうかく	嗅覚	
かつきてき	画期的		きゅうし	臼齒	
かつこ	括弧		きる	切る	
かつて	かつて	△嘗て	きる	斬る	世相を斬る
かつて	勝手	勝手に違う 勝手次第	きわまる	窮まる	進退窮まる 窮まりなき宇宙
かつとう	葛藤			極まる	不都合極まる言動
かつぱつ	活発		きわめて	極めて	極めて大きい
かな	仮名	片仮名, 平仮名 仮名遣い	きわめる	極める	見極める
				究める	学を究める
かなう	かなう	△叶う, 適う	きんさ	僅差	
かなた	かなた	△彼方	【く】		
かならず	必ず		ください	下さい	資料を下さい
かまう	構う	構わない 費用に構わず お構いなく		ください	御指導ください 御覧ください
	～(て)もかまわ ない	外出してもかまわ ない	くだす	～(て)ください	問題点を話してく ださい
がまん	我慢		くだす	下す	判決を下す
かもしれない	～かもしれない	△かも知れない 間違いかもしれない	くみあわせる	組み合わせる	
			くみたてる	組み立てる	
からめる	絡める		くむ	酌む	酒を酌む 事情を酌む
かろうじて	辛うじて			位	位する 位取り
かんがみる	鑑みる		くらい	～くらい(ぐら い)	どのくらい
かんげき	間隙			比べる	△較べる
かんじん	肝心	△肝腎 肝心要 肝心な事柄 ～に関する～	くらべる	来る	人が来る
			くる	～(て)くる	寒くなってくる
かんする	関する		くれぐれも	くれぐれも	△呉々も
かんぺき	完璧		くれる	くれる	△呉れる
【き】				～(て)くれる	資料をくれる 援助してくれる
きがかり	気掛かり				
きぐ	危惧		くろうと	玄人	
きする	期する	～を期して	【け】		
きそん	毀損		げ(接尾語)	～げ	惜しげもなく
きたす	来す	支障を来す			

見出し	表記	備考	こと	事	事を起こす
		△～気			事に当たる
けいがいか	形骸化		ことがら	～こと	許可しないことがある
けいもう	啓もう	△啓蒙〔啓発〕	ごと	事柄	次の事柄について
けた	桁	3桁, 橋桁	ごとく	～ごと	△毎
けっこう	結構	結構な品物		ごとく	△如く
		結構です	ことさら		〔ように〕
	けっこう	けっこう役に立つ	ことなる	殊更	殊更～する
けんさん	研さん	△研鑽	ことに	異なる	意見が異なる
けんそん	謙遜		ことのほか		～を異にする
けんばん	鍵盤		こども	殊に	殊に優れている
【こ】			こどもたち	殊の外	
ご(接頭語)	御～	御案内	ことわる	子供	
		御調査のほど	このごに～	子供たち	
	ご～	ごあいさつ	このように	断る	断りの手紙
		ごべんたつ	ごぶさた	この期に～	この期に及んで
		(仮名書きの場合)	こむ	このような	
ごい	語彙		こもる	御無沙汰	
こう	乞う	雨乞い	ころ	混む	電車が混む
こうばい	勾配		こんてい	込む	負けが込む
ごうまん	傲慢		コンピュータ	籠もる	閉じ籠もる
こうむる	被る	損害を被る	【さ】	頃	日頃
こうよう	高揚	△昂揚	ざせつ	根底	
こえる	越える	山を越える	さいはい	コンピュータ	△コンピューター
		年を越す	さいわい		
	超える	10万円を超える額		挫折	
		1000万人を越す人口	さかのぼる	采配	
こかんせつ	股関節		さき	幸い	幸いだ
ごく	ごく	△極	さきに		幸い間に合った
		ごく新しい	さきほど	遡る	
こけつ	虎穴		さげすむ	先	先に立つ
こころがけ(る)	心掛け(る)		ささいな		先取り, 先んずる
ごぞんじ	御存じ	△御存知	ささげる	さきに	さきにお知らせ
		御存じですか	さしあげる	先ほど	△先程
こたえ(名詞)	答え		さしあたり	蔑む	
こたえる	答える	質問に答える	さしえ	ささいな	△些細な
	応える	要望に応える	さしかかる	ささげる	△捧げる
		(～に応じる)		差し上げる	
こっけい	滑稽			差し当たり	
				挿絵	
				差し掛かる	

見出し	表記	備考			
さしさわり	差し障り		しくみ	仕組み	機械の仕組み
さしず	指図		しげき	刺激	
さしずめ	さしずめ	△差し詰め	しごく	至極	至極もつともである
さしだす	差し出す	さしずめ計画どおりに実施する	しさい	子細	△仔細 子細があつて
さしだしにん	差出人	紹介状を差し出す	しじゅう	始終	始終～する
さしつかえる	差し支える		しだい	次第	式次第 ～する次第である
さしつかわす	差し遣わす		したがう	従う	法律に従う
さすがに	さすがに	△流石に	したがって(接続詞)	したがって	△従つて したがって、～
ざせつ	挫折		じつに	実に	
さっきゅう	早急	早急に手配する	しばしば	しばしば	
さっそく	早速	早速送付する	しばらく	しばらく	△暫く
さばく	さばく	△捌く 品物をさばく	しぼる	絞る	手ぬぐいを絞る 絞り染め
さほど	さほど	罪人を裁く		搾る	乳を搾る
さまざま	様々	さほど重要でない	しまつする	始末する	搾り取る 書類を始末する
さらい～	再来～	再来週, 再来月, 再来年	シミュレーション	シミュレーション	×シミュレーション
さらなる(連体詞)	更なる(連体詞)		しめきり	締切り	申込みの締切り
さらに(副詞)	更に	更に検討する	しゃりょう	車両	締切日
さらに(接続詞)	さらに	さらに, ～	しゅうちしん	羞恥心	△車輛
さる	去る	去るに当たって	じゅうぶん	十分	△充分
さわやか	爽やか	去る○日	じょうず	上手	
さわる	障る	気に障る	じょうぶ	丈夫	丈夫な体
	触る	差し障る	しょせん	所詮	
		展示品に触る	しりぞける	退ける	△斥ける
		手触りがよい	しろうと	素人	
さんけい	参詣		しんし	真摯	
ざんしん	斬新		しんしよく	侵食	△侵蝕
さんろく	山麓		しんせき	親戚	
【し】			じんだい	甚大	被害甚大
しあわせ	幸せ		しんちよく	進捗	
しいて	強いて		じんもん	尋問	△訊問
しいてき	恣意的		【す】		
しかた	仕方	仕方がない	すいせん	推薦	
しかる	叱る	※叱責, 叱咤	ずいぶん	随分	随分早く着いた

見出し	表記	備考			
すえおき	据置き		そうかい	爽快	
すえおく	据え置く		ぞうきん	雑巾	
すき	隙	隙間	そうごう	総合	△総合
すぎない	すぎない	～にすぎない	そうじて	総じて	
すぎる	過ぎる	期限が過ぎる	そうそうに	早々に	
すくなくとも	少なくとも		そうてい	装丁	
すぐに	すぐに	△直に	そうとう	相当	部長に相当する 相当難しい
すぐれる	優れる	△勝れる	そうにゆう	挿入	
すこし	少し		そうめい	そうめい	△聡明 〔賢明, 賢い〕
すすめる	進める	交渉を進める	そち	措置	
	勧める	入会を勧める	そっせん	率先	
	薦める	候補者として薦める	そば	そば	△側, △傍
			そまつな	粗末な	
ずつ	ずつ	1つずつ	それ	それ	それぞれ, それら それゆえ
		少しずつ	そろう	そろう	△揃う *品揃え
すでに	既に	既に完成している	ぞんずる	存ずる	それがよいと存じ ます 御存じの～
すなわち	すなわち	△即ち			
すばらしい	すばらしい	△素晴らしい			
すべて	全て	△総て	【た】		
すみやかに	速やかに	速やかに実施する	た	他	その他
すりあわせる	擦り合わせる		たいがい	大概	大概大丈夫だろう
すわる	座る	座り込む	たいした	大した	大したことはない 大して参考になら ない
	据わる	目が据わる			
【せ】			だいじょうぶだ	大丈夫だ	もう大丈夫だ
せいとん	整頓		たいせき	堆積	
せっかく	せっかく	△折角	たいせつに	大切に	
せつに	切に	切に祈る	たいそう	大層	大層明るい
ぜひ	是非	是非を論ずる 是非お願いします	だいたい	大体	大体よい 大体のところは
せん	栓	消火栓	たいてい	大抵	大抵のことは分かる
せん	腺	涙腺, 前立腺,	たいとう	台頭	大抵雨になるだろう
せんさく	詮索		だいぶ(ん)	大分	大分増えた
せんぼう	羨望		たいへん	大変	大変な人手 大変努力する
【そ】			たえず		
ソ・ソウ	曾(曾)	曾祖父	たがいに		
そう	沿う	意見に沿う 川沿いの家	たぐい		
	添う	連れ添う 付き添い	たえず	絶えず	絶えず行き来する

見出し	表記	備考	だれ	誰	
			【ち】		
たがいに	互いに	互いに励まし合う	ちいさな	小さな	
たぐい	類い		ちかごろ	近頃	
たくさん	たくさん	△沢山	ちかづく	近づく	△近づく
たけ	丈	身の丈 思いの丈を述べる	ちくいち	逐一	逐一報告する
だけ	～だけ	調査ただけである	ちなみに	ちなみに	△因みに
たしょう	多少	多少早くなる	ちなむ	ちなむ	△因む
たずねる	尋ねる	由来を尋ねる	ちみつ	緻密	
	訪ねる	知人を訪ねる	ちょうだい	頂戴	
ただ	ただ	△唯, 只	ちょうど	ちょうど	△丁度
ただし(接続詞)	ただし	△但し	ちよっと	ちよっと	△一寸
ただちに	直ちに		ちんでん	沈殿	△沈澱
たち(接尾語)	～たち	△達 子供たち, 私たち ※友達…熟語として漢字	【つ】		
たちのく	立ち退く	立ち退き	ついたち	一日	※月の始めの日と
たちまち	たちまち	△忽ち	ついで	*12月1日	いう慣用句的扱い
たつ	断つ	退路を断つ	ついでに	次いで	
	絶つ	縁を絶つ	ついでに	ついでに	ついでに仕事も頼む
	裁つ	生地を裁つ	ついでに	ついでに	△就いては
たて	盾	△楯	ついでに	ついでに	ついでに, ~
たとえば	例えば		ついでに	ついでに	△遂に
たのもし	頼もしい		ついでに	ついでに	ついでに完成する
たび	度	度重なる	つかう	使う	機械を使う
	～たび	度々			重油を使う
たぶん	多分	このたび		遣う	心を遣う
たまわる	賜る	～するたび			気を遣う
ため	ため	多分～であろう			小遣い銭
					仮名遣い
だめ	駄目	△為	つかわす	遣わす	差し遣わす
ためす	試す	ために	つき	～付き	折り紙付き
		～のため			尾頭付き
					顔つき, 目つき
					体つき
					次のとおり
					次々と
					△附く
					利息が付く
					味方に付く
					手紙が着く
					船を岸に着ける

見出し	表記	備考	【て】		
			てあて	手当	手当を支給する
				手当て	傷の手当て
つぐ	就く	職に就く	ていしょく	抵触	
		役に就ける	ていねい	丁寧	
	次ぐ	事件が相次ぐ	ておくれ	手後れ	
		取り次ぐ	てがかり	手掛かり	
	継ぐ	跡を継ぐ	でかける	出掛ける	
		引き継ぐ	でき	出来	出来心, 出来事
	接ぐ	木を接ぐ			出来上がる
		接ぎ木			出来上がり
つくる	作る	おもちゃを作る			出来が良い
つくる	造る	船を造る	～でき	～出来	上出来, 不出来
つくる	創る	新しい文化を創り出す	デキ	※溺	※溺愛
			できる	できる	△出来る
	つくり	*課題づくり			利用できる
		*授業づくり			できるだけ～
づけ	～付け	○月○日付け	てぎわ	手際	手際が良い
		日付	てごろ	手頃	手頃な大きさ
つける	付ける	条件を付ける	てだて	手立て	△手だて
		付け替える	てはず	手はず	△手筈
		関連付ける			手はずを整える
つごう	都合	都合で	てびき	手引	指導の手引, 手引書, 手引きをする
		都合○名			
つたない	拙い		てもと	手元	△手許
つつしむ	慎む	身を慎む	【と】		
つづる	つづる	△綴る	といあわせ	問合せ	問合せをする
		文をつづる	といあわせる	問い合わせる	
		書類をつづり込む	～とう	～等	「など」と読ませたいときは仮名
*ぶんしょつづり	*文書綴り				
つど	都度	その都度	とうがい	当該	
つとめて	努めて	努めて早起きする	どうくつ	洞窟	
つとめる	努める	解決に努める	どうし	同士	児童同士
	勤める	会社に勤める	どうじょう	同上	
	務める	議長を務める	とうてい	到底	到底できない
		主役を務める	とうとう	とうとう	とうとう決定した
つながる	つながる	△繋る	とおり	通り	銀座通り, 一通り
つねに	常に			～を通して	
つまずき	つまずき			～とおり	次のとおりである
つもり	積もり	心積もり			従来どおり
		※見積り	とかく	とかく	△兎角
	つもり	そのつもりだ			とにかく

見出し	表記	備考		～とも	～とともに
とき	時 ～ときとる	とにもかくにも 時の記念日 事故のときは連絡する ～したときに	ともだち ども(接尾語) ともなう	友達 ども 伴う	～するとともに 今後とも 家庭や地域とも △共 私ども ～に伴って
とく	解く  溶く	問題を解く 疑いが解ける 会長の任を解かれる 絵の具を溶く 地域社会に溶け込む	とらえる とらえる とりあえず	捕らえる 捉える 取りあえず	泥棒を捕らえる 機会を捉える △取り敢えず 取りあえず御報告まで
とくに	特に		とりあげる	取り上げる	
どこ	どこ	△何処	とり入れる	取り入れる	
ところ	所 ～ところ	△処 現在のところ差し支えない	とりかかる とりくみかた とりくむ とりはからう とりまとめ とりもどす とりやめ とりわけ とりわける とる	取り掛かる 取り組み方 取り組む 取り計らう 取りまとめ 取り戻す 取りやめ とりわけ 取り分ける とる	仕事に取り掛かる
ところが(接続詞)	ところが				
ところで(接続詞)	ところで				
とじる	とじる  閉じる	△綴じる 紙をとじる 門を閉じる			
とつぜん	突然				
ととのえる	整える  調える	身辺を整える 調子を整える 晴れ着を調える 費用を調える		取る	△取り止め 形態をとる 食事をとる(する) 感じ取る アンケートを取る メモを取る 連絡を取る 栄養を摂る 高校の卒業生を採る
とどめる	とどめる	△止める, △留める 記録にとどめる		摂る 採る	
とほいうものの	とほいうものの				
とはいえ	とはいえ				
とめる	止める 留める  泊める	息を止める ボタンを留める 留め置く, 書留 客を泊める		執る  捕る 撮る	会議で決を採る 事務を執る 式を執り行う 生け捕る 写真を撮る
とも	共	～と～が共に～ 共に(副詞) 共々(副詞)	【な】 ない	ない	△無い 欠点がない



見出し	表記	備考			
			なるべく なるほど	なるべく なるほど	小さくなる なるべく早くする △成程
		行かない	【に】		
		有り・無し	におう	匂う	梅の花が匂う
	亡い	亡くなる	におう	臭う	生ゴミが臭う
		亡き人	にぎわう	にぎわう	△賑わう
ないし	ないし	△乃至	にくい	憎い	△～憎い, ~難しい
		北ないし北東の風			言いにくい
なお	なお	△尚, 猶	になう	担う	△荷う
		なお, ~			双肩に担う
		なおさら	にらむ	にらむ	△睨む
なか	中	箱の中, 括弧の中			にらみ合わせる
ながい	長い	長い道, 気が長い	にわか	にわか	△俄
	永い	末永く契る			にわか事に事が運ぶ
なかなか	なかなか	なかなか現れない	【ぬ】		
なかば	半ば	半ば諦める	ぬぐう	拭う	
ながら	ながら	△乍ら	【ね】		
		歩きながら話す	ねりなおす	練り直す	
なごり	名残		ねらい	狙い	*授業や指導において「ねらい」と仮名表記
なさけ	情け	情けない			
なざし	名指し		【の】		
なされる	なされる	△成される	のうり	脳裏	△脳裡
なじむ	なじむ	△馴染む	のがす	逃す	逃れる
なす	なす	△為す	のける	のける	△除ける
		なすすべもない	のちほど	後ほど	後ほど連絡する
なぜ	なぜ	△何故	のつとる	のつとる	△則る
～など	～など	△等は「とう」と読む			[基づく, 従う, よる, 即する]
ななめ	斜め				
なにとぞ	何とぞ	△何卒	のばす	伸ばす	勢力を伸ばす
なにぶん	何分	何分よろしく			学力が伸びる
なみなみ	並々	並々ならぬ		延ばす	開会を延ばす
ならう	倣う	前例に倣う			支払いが延び延びになる
ならびに(接続詞)	並びに	(a 及び b) 並びに (c 及び d)	のべる	延べる	布団を延べる
なりたつ	成り立つ		のべる	伸べる	救いの手を伸べる
なりゆき	成り行き		のむ	飲む	△呑む
なる	成る	△為る	【は】		
		本表と付表とから	はあく	把握	
		成る	はいぜん	配膳	
	なる	1万円になる			

見出し	表記	備考			
			はなはだ	甚だ	甚だ大きい
			はば	幅	甚だしい
			はばかり	はばかり	△巾
			はばむ	阻む	△憚る
			はやい	早い	時期が早い
				速い	矢継ぎ早
					流れが速い
					テンポが速い
			はらいもどし	払戻し	払戻金, 払戻証書
			はらいもどす	払い戻す	
			はる	張る	リンクを張る
				貼る	シールを貼る
			はれる	腫れる	※腫らす
			はんでん	斑点	
			はんようせい	汎用性	
			はんれい	凡例	
			【ひ】		
			ひいては	ひいては	△延いては
			ひきおこす	引き起こす	△惹き起こす
			ひごと	日ごと	△日毎
			ひごろ	※日頃	
			ひづけ	日付	
			ひとかたならぬ	一方ならぬ	
			ひとしお	ひとしお	△一入
			ひとしく	ひとしく	△齊しく
					全員ひとしく賛成
					した
			ひとそろい	一そろい	△一揃
			ひとたび	一たび	△一度
			ひととおり	一通り	
			ひとまず	ひとまず	△一先ず
			ひとり	一人	一人っ子
					一人一人
					△一人ひとり
				独り	独り占め
			ひとわり	ひとわり	△一渡り
			ひゆ	比喩	
			ひよく	肥沃	
			ひょうき	表記	表記の金額
				標記	国語の表記
はいる	入る				
はえる	栄える	見栄え, 出来栄え			
はがき	はがき	△葉書			
はがす	剥がす	剥ぐ			
はかどる	はかどる	△捗る			
はからずも	図らずも				
ばかり	～ばかり	こればかり ～するばかり			
はかる	図る	合理化を図る 解決を図る			
	計る	時間を計る 計り知れない恩恵			
	測る	距離を測る 面積を測る			
	量る	目方を量る 容積を量る			
	謀る	暗殺を謀る			
	諮る	審議会に諮る			
はぐくむ	育む	育んだ, 育み			
ばくぜん	漠然	漠然とした			
ばくだい	ばくだい	△莫大, [多大]			
はさむ	挟む	挟み込む			
はじめ	はじめ	各学年のはじめ 教職員をはじめ ～をはじめとして			
	始め	始め-中-終わり			
はじめて	初めて	初めての経験			
はじめ(る)	始める	思考し始める 始めから終わりまで			
はず	はず	△筈 できるはずがない			
はすう	端数				
はずれる	外れる	町外れ, 外す 踏み外す			
はたして	果たして	果たして～だ			
はつらつ	はつらつ	△撥刺			
はで	派手				
はなしあう(動詞)	話し合う	話し合った 話し合いながら			

見出し	表記	備考	ふんいき	雰囲気	
			【へ】	閉塞	
ひらく	開く	窓を開く，未来を開く，△拓く	へいそく	ページ	△頁（論文中は使用することもある）
ひろがる	広がる	△拡がる	ページ		
びんせん	便箋		べき	べき	△可き
ひんばん	頻繁		へきち	へき地	そうすべきである
【ふ】			へた	下手	△僻地，[辺地]
ふ	附	附則，附属，附帯	べんたつ	べんたつ	△鞭撻
	付	附置，寄附	【ほ】		
	付	付記，付随，付与	ほう	方	先方，方針，諸方
ふう	風	付録，交付，給付	ほうだい	膨大	君の方
	～ふう	洋風，学者風の人	ほうる	放る	△厩大，[多大]
		こういうふうに造る	ほか	ほか	原則ひらがなで
		知らないふうを装う			ほかの意見，ほかから探す
ふえる	殖える	財産が殖える		他（た）	
	増える	人数が増える		外	思いの外
ふく	拭く		ほしい	欲しい	*殊の外
ふさぐ	塞ぐ	塞がる			金が欲しい
ふさわしい	ふさわしい	△相応しい			欲しがる
ふじゅうぶん	不十分	△不充分	ほそく	～してほしい	見てほしい
ふせん	付箋			補足	
ふたたび	再び		ほど	捕捉	人工衛星を捕捉する
ふだん	ふだん	△普段			
		ふだん考えている		程	程遠い，程なく
		こと			身の程
ふっしょく	払拭	拭く，拭う		ほど	先ほど，後ほど
ふまえ	踏まえ	～を踏まえて			今朝ほど
ふりがな	振り仮名		ほとんど	～ほど	少ないほど良い
ふるう	振るう	腕を振るう	ほにゅうるい	ほとんど	△殆ど
		事業が振るわない	ほぼ	哺乳類	
	震う	声を震わせる	ほまれ	ほぼ	△略
		身震い	ほめる	誉れ	
	奮う	勇気を奮う	ほんとう	褒める	△誉める
		奮い立つ	【ま】	本当	本当の話，本当に
ふるって	奮って	奮って参加ください	まいしん		
		い	まぎわ	間際	△邁進
ふれあう	触れ合う				出発間際
ふれる	触れる				

見出し	表記	備考			
まことに	誠に	誠に重要な問題である △真に, △実に	みいだす みきわめる みごと	見いだす 見極める 見事	△見出す  △美事
まさに	正に	正に指摘のとおりである △将に, △方に	みずから みぞう みたす みだりに みち みっか みつける みとる みなす みにくい みにつける みのがす みる	自ら 未曾有 満たす みだりに 道 三日 見付ける 見取る みなす 見にくい 身に付ける 見逃す 見る	自ら名乗り出る  △充たす △妄に, △濫に △路, 徑, 途
まさる	勝る	△優る		見付ける	
まして	まして	△況して		見取る	
まじめ	真面目	*「まじめ」も可		みなす	△見なす, 見做す
まじる	交じる	漢字仮名交じり文		見にくい	△見難い
まず	まず	△先ず		身に付ける	△身につける
ますます	ますます	△益々 ますます増加する		見逃す	
また	又	又の機会, 又聞き		見る	△観る, 看る, 視 る, 覧る
また(接続詞)	また	また, ~			遠くの景色を見る
または(接続詞)	又は	※ a 又は b (a若しくはb) 又はc			面倒を見る
まちがい	間違い			診る	患者を診る, 脈を診る
まちがう	間違う			~(て)みる	見てみる
まっさき	真っ先	真っ赤, 真っ青	【む】		
まったく	全く		むしろ	むしろ	むしろこの方が便利だ
まっとうする	全うする	△完うする			△寧ろ
まで	まで	△迄 ○日まで △真似	むずかしい むぞうさ むだ むとんちゃく むなしい むね	難しい 無造作 無駄 無頓着 むなしい 旨	
まね	まね				無造作に描く
まもなく	間もなく				無駄話
まれ	まれ	△希, 稀 世にもまれな話			△空しい, 虚しい
まわり	回り  周り	△廻り 身の回り, 胴回り 回る, 回す 池の周り 周りの人	むやみ	むやみ	その旨, 了承されたい △無闇, 無暗 むやみに言い触らす 無論正しい
まんなか	真ん中		むろん	無論	
【み】			【め】		
み(接頭語)	み~	△御~, み霊, み代	めあて	めあて 目当て	*授業や指導においては「めあて」と仮名表記
み(接尾語)	~み	△~味 弱み, 有り難み			

見出し	表記	備考	もと	下	法の下に平等 ～という理念の下
めいめい	銘々	銘々に分ける		元	火の元，出版元
めいりょう	明瞭			本	本を正す
めがね	眼鏡			基	資料を基にする
めぐる	巡る	寺を巡る	もの	～もの	正しいものと認める
	めぐる	課題をめぐって			～を示すもの
めざす	目指す	△めざす		物(物体として 存在する物)	物を大切に扱う
めざましい	目覚ましい			者(人間)	18歳未満の者
めった	めった	△滅多		最寄り	最寄りの駅
		めったやたらに	もより	もらう	△貰う
めでたい	めでたい	△目出度い	もらう		～してもらう
めど	めど	△目処		漏らす	本音を漏らす
めやす	目安		もらす	もろもろ	△諸々
めんどう	面倒	御面倒をお掛けし ます	もろもろ	【や】	
【も】			やかましい	やかましい	△喧しい
もうしあげる	申し上げる		やくわり	役割	
もうしあわせ	申合せ	申し合わせる	やさしい	易しい	易しい問題
もうしこむ	申し込む			優しい	優しい心遣い
もうしこみ	申込み	申込書	やすい	安い	
もうしわけ	申し訳			～やすい	△易い
もうら	網羅				読みやすい
もくと	目途	年末完成を目途と する	やっかい	厄介	
			やむをえず	やむを得ず	
もくろみ	もくろみ	△目論見	やわらかい	柔らかない	柔らかな毛布
もし	もし	△若し			物柔らかな態度
もしくは(接続詞)	若しくは	(a 若しくは b) 又は c		軟らかない	表情が軟らかない
					軟らかな土
もたらす	もたらす		やわらぐ	和らぐ	気持ちが和らぐ
もちろん	もちろん	△勿論	【ゆ】		
もつ	もつ	責任をもつ	ゆいしよ	由緒	
		課題をもつ	ゆうゆう	悠々	悠々自適
	持つ	荷物を持つ	ゆえ	故	故あって，故なく
	もって	△以って		～ゆえ	一部の反対のゆえ
もって		～をもって			にはかどらない
	最も	最も大切			それゆえ
もつとも	もつとも	もつともな御意見 です	ゆえに(接続詞)	ゆえに	ゆえに，～
					△故に
もつぱら	専ら	専ら仕事に力を入 れる	ゆがむ	ゆがむ	△歪む
			ゆくえ	行方	行方不明

見出し	表記	備考
ゆだねる	委ねる	
ゆるむ	緩む	緩やかだ
【よ】		
よい	良い（評価）	
	よい	よい点，住みよい 都合のよい，よい こと，よい機会 （指導要領の表現）
	～（て）よい（許可）	連絡してよい
	善い	善い行い
よけい	余計	費用が余計に掛か る
よごれる	汚れる	
よほど	よほど	△余程
よりどころ	よりどころ	△拠所
よる	よる	△依る，因る これによってよい
よろしく	よろしく	△宜しく
【ら】		
ら	～ら	△～等 これら，我ら
【り】		
りっぱ	立派	
【る】		
るす	留守	
【れ】		
れんが	れんが	△煉瓦
【わ】		
わが	我が	我が国，我が家
わかる	分かる	△解る，判る 気持ちが分かる
わけ	訳	訳がある，申し訳 ない
わずか	僅か	
わずらう	煩う	思い煩う 人手を煩わす
	患う	胸を患う
わたくし	私	私事
わたし	私	

わたる	渡る	橋を渡る
	わたる	2行にわたる 細部にわたる
わびる	わびる	△詫びる
わりあい	割合	
わりに	割に	
われ	我	我々，我ら

☆ 複合の**名詞**の場合，送り仮名を付けずに書くことができる。

受持ち	受渡し	受入れ	打合せ
置場	買物	書換え	貸出し
期限付	組合せ	組立て	組替え
立会い	条件付	問合せ	取決め
取扱い	取消し	話合い	申入れ
見合せ	申合せ	見積り	申込み
申立て	申出	持込み	呼出し
受付	貸出	手引	手引書
出入口	箇条書	取組	日付
物語	役割	見取図	奥付
			など

※ 同一論文中では，表記を統一する。

参考：送り仮名の付け方について

「法令における漢字使用等について」

（平成22年11月30日付け内閣法制局長官決定）

## 【付録】 公用文における漢字使用等について (文化審議会国語分科会作成) から抜粋

1 次のような代名詞は原則として漢字で書く。

(例) 俺, 彼, 誰, 何, 僕, 私, 我々

5 次のような接続詞は, 原則として, 仮名で書く。

(例) おって, かつ, したがって, ただし, ついては,  
ところが, ところで, また, ゆえに

2 次のような副詞及び連体詞は, 原則として漢字で書く。

(例) 副詞  
余り, 至って, 大いに, 恐らく, 概して, 必ず,  
必ずしも, 辛うじて, 極めて, 殊に, 更に, 実に,  
少なくとも, 少し, 既に, 全て, 切に, 大して,  
絶えず, 互いに, 直ちに, 例えば, 次いで, 努め  
て, 常に, 特に, 突然, 初めて, 果たして, 甚だ,  
再び, 全く, 無論, 最も, 専ら, 僅か, 割に

(例) 連体詞  
明くる, 大きな, 来る, 去る, 小さな, 我が(国)

ただし, 次のような副詞は原則として仮名で書く。

(例) かなり, ふと, やはり, よほど

3 次の接頭語は, その接頭語が付く語を漢字で書く場合は, 原則として, 漢字で書き, その接頭語が付く語を仮名で書く場合は, 原則として, 仮名で書く。

(例) 御案内(御+案内), 御挨拶(御+挨拶)  
ごもつとも(ご+もつとも)

4 次のような接尾語は, 原則として仮名で書く。

(例) げ(惜しげもなく), ども(私ども), ぶる(偉ぶる),  
み(弱み), め(少なめ)

ただし, 次の4語は, 原則として漢字で書く。

及び, 並びに, 又は, 若しくは